

# 夜叉神峠の林道 復元

「一橋大山岳部OB会、南アに『恩返し整備』

冬の衰退に伴い荒廃が進み、通行できなくなっていた道の再生を歓迎。「かつて地域の産業を支えた道が復元されてうれしい」との声が上がり、登山者の周遊ルートとして活用することを期待している。

一橋大山岳部OB会の「針葉樹会」（竹中副会長）が、1950年代末で地元住民が作業用に使っていた夜叉神峠～南アルプス市芦安戸倉への林道を登山道として整備し「復活」させた。芦安地区の住民は、林



同大山岳部は、前身の東京商科大だった1970年代初期から旧芦安村を拠点にして南アルプス・北信に達し、同村の山岳アイトの協力を得て登山をしている。30年には、同大山岳部の小谷部を助成が、同村の山岳アイトと一橋に北信バントレ



本町などを利用して登山道整備が盛ん進められている。写真：山岳部OB会

## 周遊ルートに活用期待



スの冬季初登峰を決し返している。南アルプスの登山史などを記した書籍を収録する南アルプス芦安山岳部と同会が、会の活動記録などを掲載した会誌の企画などを進めて以前から活動があつたことがきっかけとなり、学生時代に通った地域を懐かしむとともに芦安地区に対して感謝の気持ちを表そうと整備を決めた。

同会によると、整備したルートは夜叉神峠の南側に位置する夜叉神峠（標高1,053メートル）から南アルプス林道（夜叉神峠～正四郎）の夜叉神トシネル東側に残る杉林帯の約1.5キロ。同会の副、70代メンバー約15人とNPO法人高野山アンクラブのメンバーらが6月から作業を始め、斜面が崩

れたり材木が朽ちたりしている箇所を修復。材木を運び上げての簡易作りや土止めの整備などを行い、10月下旬に道が完成した。

これまで夜叉神峠に登山する際は、同じ道を往復するしかなかったが、今回の整備で夜叉神峠周辺の登山道を一周できるようになった。

作業に携わった同会の本間浩三さん（71）＝神前川町神前市＝は「昔からお世話になっていいる芦安地区に恩返しができるようになった。多くの人が足を運んでもらえたらうれしい」と話す。

同NPOの清水直一さん（62）は「実われつつあった道を再生してもらいありがたう思う。夜叉神峠周辺からは風嵐三山が一帯あるもので、登山者には周遊ルートとして楽しんでもらいたい」と話す。同会のほか久保隆正は道があつたことで、高野山まで足を延ばし、コースを二周する登山者も増えたと話す。芦安を訪れる観光客の増加にも期待したい」と話して